

大自然とお友達体験講座 2023 講座レポート

標記の講座は今年度参加者14名でスタートしました。

第1回目の講座は6月4日(日)大阪南港 ATC グリーンエコプラザのセミナールームで開催しました。

右の写真は冒頭の当協会村山理事長挨拶の様子です。
講座の趣旨や、受講生への労いの言葉を述べました。



そしてスタッフによる講座の趣旨や流れを説明後、基調講演と致しまして「衰退する大阪の生物多様性～チョウたちとまもる里山～」を、大阪府立大学名誉教授の石井実先生にご講演頂きました。



石井先生は、生物多様性や外来生物の話、里山林についてなど、講座で訪れる予定の、能勢にある「三草山」の生物多様性を例に、この日の参加者12名に向けてご解説されました。
生物多様性の基本のお話や、その恵みを受けて私たちの暮らしは支えられているというお話、その他石井先生はチョウを中心とした昆虫の生態学を専門とされていますので、環境指標生物に選ばれている理由や調査方法の説明を分かりやすくご説明され、参加者は熱心に聞き入っていました。



講座の最後の質問コーナーでは、2つの質問が出ました。「ニホンジカが増えた理由」と「里山が人によってできる以前の、放置時代(人が手を加えていない時代)が気になった」というものです。



前者の質問に対し石井先生は、「ニホンジカは里山ができたことで山から出られるようになった。本来であれば冬に雪によってエサが食べられなくなる小鹿がいてそれらは死んでいたが、近年雪が降らなくなり、死ななくなった。天敵であるオオカミが絶滅して居なくなった。狩猟者の高齢化や減少もその理由。」と述べられました。

後者の質問に対しては、「縄文時代には稲作が始まり、農民がいた。刈藪、たい肥などの利用があり、既に里山が存在していた。終戦後、里山は減少傾向にあるが、里山がある限りそこには似た環境が広がる」と述べられました。

更に石井先生は、OECM(保護地域以外で生物多様性の保全に貢献する地域)についても述べられ、インターネットで閲覧できる検討会、議事録の紹介をされました。

次に、環境保全のボランティアとはどういったものか。どういった意義があるのか。ということ、World Seed 代表理事岡見厚志さんより、お話を頂きました。

「ボランティアに参加したことがある人!？」の問いかけに、会場では半数位の人が手を挙げていて、ごみ拾いをしたことが多い印象でした。



また、「この体験講座に参加した理由は！？」の問いかけに、参加者からは「自然に触れあえるから」「安いから」「面白そうだったから」といった回答がありました。岡見さんは、『ボランティアには「自主性」「社会性」「無償性」があり、対価についても様々なものがある。この講座に参加することで自分はどんなことに期待して受講していくのがいいのか、考えてみて貰いたい。』と述べられました。

ここからは、ボランティア協会2団体による大阪府内の自然環境の保全地の紹介です。これから体験講座でお世話になる活動地の取り纏めもされています。まずは公益財団法人大阪みどりのトラスト協会 飯野博道さんによる保全活動地のご紹介です。大阪みどりのトラスト協会さんは、「みどりの未来を わたしたちの手で」というキャッチフレーズを合言葉に、主に大阪府内の自然環境保全、緑の募金による緑化の推進、森林 ESD の推進などをされています。体験講座内でもお世話になる活動地や、大阪府内で活動する団体の情報サイト「大阪里山ネットワーク」の話が出て、参加者の皆さんはその興味深い内容にスクリーンに視線を集めていました。



そして公益社団法人大阪自然環境保全協会の理事、金谷薫さんによる保全活動地のご紹介です。保全協会里山保全グループ 10 グループの紹介の中で、体験講座内でお世話になる活動地の紹介もありました。

参加者の皆さんは、自然環境の保全地において繰り広げられている活動の様子を沢山の写真で知ることができました。



後半はアイスブレイクの時間です。

これから始まる現地での保全活動を前に、共に活動していく仲間と事前に交流を行うことでまずは仲良くなってもらえるよう促します。

「4つの窓」という手法を用いて自己紹介をして貰い、更にお互いの趣味嗜好を知って貰えるよう、以下の内容を、折り目を付けたA3用紙に記入、3つに分けたグループ内で共有し合いました。

学生さんは 学校名と学部 学科 学年 社会人の方は ご職業 又は 現在活動されている内容	名前と フィールドネーム
興味のある自然のジャンル (植物、鳥、虫、魚などを書いてネ)	ボランティア経験と 先程聞いた活動地で興味のある内容



様々な年代、所属の人達が、自分の所属や趣味嗜好を共有し合い、会話に花を咲かせていました。

参加者の皆さんは、有意義な時間を過ごしました。



左の写真は参加者で行った記念撮影。

右の写真は次回告知と受講についての注意事項や持ち物諸注意、活動中の危険生物について事務局連絡している様子。



最後は環境事業協会環境推進部の吉安部長より、環境事業協会の事業についての案内などがありました。



オンラインでその日に回収したアンケートでは、

- ・いろいろなボランティア活動に参加したいなと思いました。
- ・里地里山との関わり方を体験して、深く知っていきたいです。
- ・これからの活動に目的を持って、意欲的に活動していきたいなと思います。

といった、非常に前向きな回答や、

- ・若い人が多くて驚きましたが、一緒に楽しく活動したいです！
- ・大学生が多くてついて行けるか心配ですが、楽しく参加できたらと思います。

といった回答が寄せられ、保全活動地の今後が期待される講座となりました。